

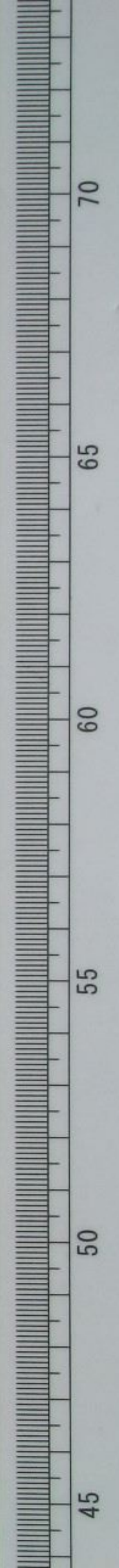
語林類葉

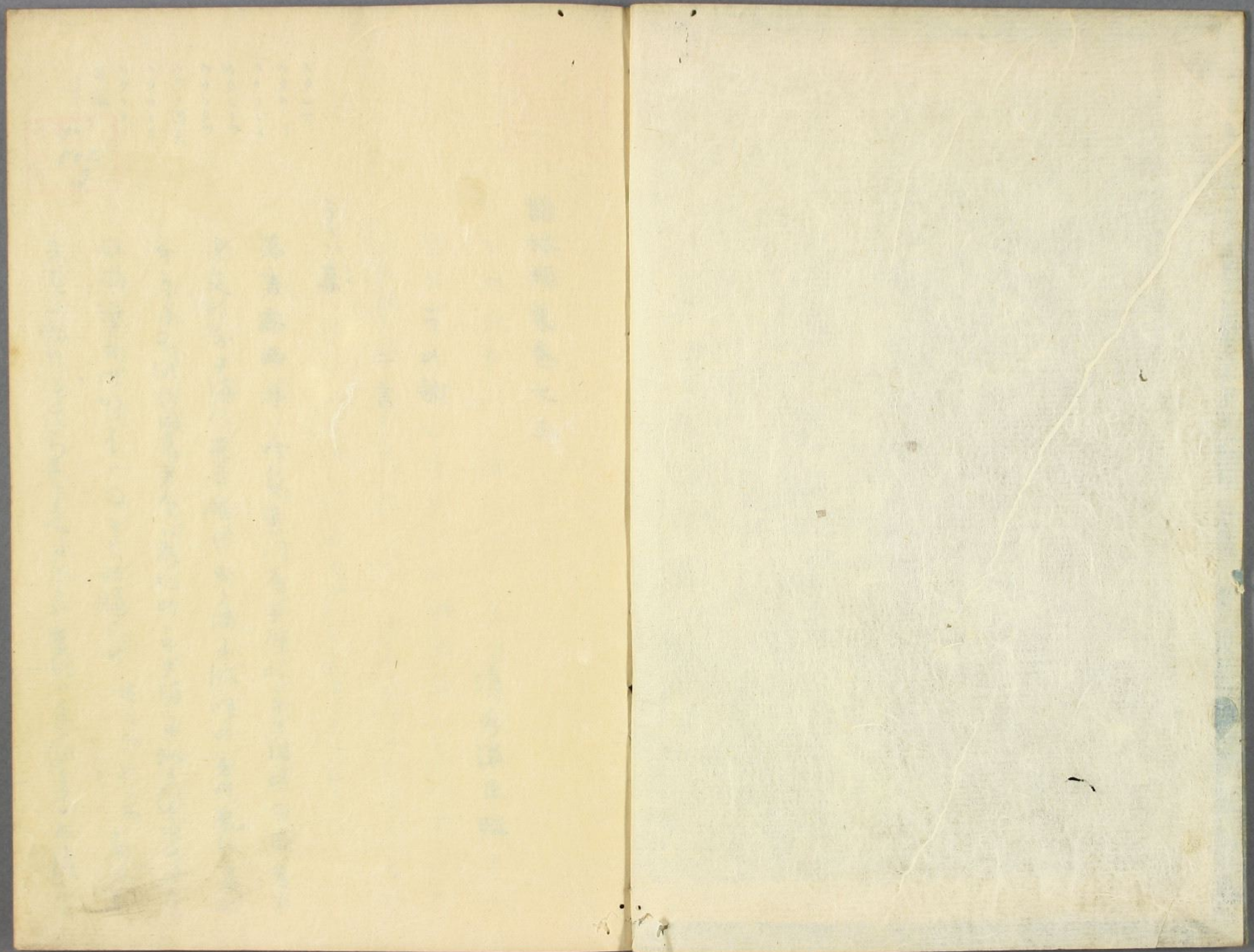
うゑ

参

三

ホ 2
502
3







語林類集卷之三

清久濱臣輯

うの部

二言

うの部

落書露頭序 冷泉黄門為尹々のふまゆの○同昔々

ふまゆのふまゆに其子息のふまゆのふまゆの風下子ゆ

ふまゆのふまゆ○同為尹々の為相のふまゆのふまゆのふまゆ

○同詠ふのふまゆのふまゆのふまゆのふまゆのふまゆ

ふまゆのふまゆのふまゆのふまゆのふまゆのふまゆ

ウタサマ

ウタカハリ

ウタノドク

ウタヒトツ

ウタフタツ

ウタノ湯ま

ウタカタリ

ウタナカノ



うま色

常光 うまいろ 弘高 こうこう

成りまふ なりまふ ○ 常集 じょうしゅう

くさ くさ ち ち

ち

○ 後 離 別 こうりべつ

に に せ せ 付 つけ 々 々

拾遺雜記

○ 常光 じょうこう 根合 ねあ ち ち 後 こう 中 ちゆう 海 かい 士 し の の 境 けい

う う き き 多 た 〇 同 どう 池 いけ の の ち ち ち ち 〇 大鏡 たいきやう

〇 散木 さんぼく 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

く く 不 ふ に に ち ち ち ち 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

く く 不 ふ に に ち ち ち ち 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

く く 不 ふ に に ち ち ち ち 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

く く 不 ふ に に ち ち ち ち 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

く く 不 ふ に に ち ち ち ち 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

く く 不 ふ に に ち ち ち ち 〇 続千雜中 ぞくせんざちゆう ち ち 後 こう 下 げ 海 かい 士 し の の 境 けい

都つと本日清めてうーと西井の清浄にうー
海とさうー海とさうー海とさうー海とさうー海と
の清浄のときりーうー年の清浄をくひりまんとし
るを住名の清神のうてあけさせしうーうーこの年
ろと死るう清と如てさうーうー海とさうー海と
年海とさうーうー海とさうー海と

うー又つ 丑三

林葉 乍卧無実意
うーうーうーうーうーうーうーうーうーうー
○拾送連系 上畧 うーうーうーうーうーうーうー

うーうーうー 人んうーうーうーうーの海と 宗貞 後にうー

うーうーうー 大和也 ○うー保 意同 うーうー

○公事根源 物名 伊名の中の地味く大將のうー
わーうー場めてあすのほとあ大將あつ福 中きうー ○

雲岡抄裏書初夜自庚二刺至干子二刺後夜自
子三刺至干丑四刺 ○源 神

○伊勢物語子とけいさうーうーうー

うーうー

仲文集
うーうーうーうーうーうーうーうーうーうー

廿四日癸巳行幸朱雀院百競馬騎射左右近衛
射者各十八人著打懸帶刀四人著小松襦袢○
讚岐日記ある。海のうらけ○巖嶋詣記袖口ほ
そくをうらけ、うちうけといふものぞ○

うちしき

源脩 うちしき、青池のまゝのみき○

うらけ 相撲のうらけ

愚依日記 古日あはれうらけのうらけ

うちしき

米のちまきハ米ヲうちラセ也物イノリスレ吹ノワザ
今昔ニウチマキニ免ノオワレタレヨシニユ

宇川保

後系君 うちしきハ○同 春日

海のまに錯入

うちしきハ○同 春日

マサリノ

源 横笛 うちしきハ○同 春日

トコロ也

ちしきハ 孟 敬をひく

うらけ

ウチタハ 万四 ちしきハ

○縣居云打詞の境の

隆信集卷六文のうきにもうきて了る所せしむ
○伊勢物語 うきうきにむさしあかしくうきて○
うきうき 紫集 ○今昔廿八廿六 上書ニハ果房ノ御
房ニ大法師義清カ上ト答テ○

うきうき 裏書

十六夜日記のうきうきもさしうきうきもさし
うきに○大鏡裏書○東鑑廿九 但見古徳書康
秀者え受三年任終殿助歟○

うきうき 可憐にうきうきもさしうきうきもさし

五二廿二 あかぬうきうきもさしうきうきもさし
あかぬうきうきもさしうきうきもさし

○領中をさせ
新六かまう 信彦

○

うきうき 総。博

伊勢物語
うきうきもさしうきうきもさし

○枕冊子一廿六
うきうきもさしうきうきもさし

うきうきもさしうきうきもさし
○紫集 近江のうきうきもさし

うきうきもさし
うきうきもさし

さへも一
多海にたふらふもたふらふも
○ 宇治拾遺ニ
も
○ 今昔口三

駿河三々
うしせき
○ 今昔口三

うきと一
後醍醐三 伊勢
○ 今昔口三

万代雜ニ
秋の因りほのり
○ 今昔口三

五言

うきと一
さめゆき
○ 今昔口三

うきと一
狂鶴 遊仙窟

万代意三
入道を
○ 今昔口三

ウケハシケ
ウケヒカウシ
ウケヒオツシ
神ウクル

うけむのま

○ 神功紀新狩 此云于氣 縣居雜録是神にいのりて
そのまををく人多にかりけく古事記うけむのま
うけむのま ぬとを祈るまも誓をまも

源 記葉 ちきごんぬまのうけこけぬのまをまも

を 河見咀のち ○ ウクルノウリウケヒノ

千神 永能 ちき月におく國ぬまのけくそまをまも

ウタ、アルサマ
ウタ、アルモノ

うけむのま

古今譚話 ちきくまのま

花 ちきくまのま ちきくまのまをまも

後拾秋上 能因

ちきくまのまをまも

林葉集

ちきくまのまをまも

万代雜二

ちきくまのまをまも

林葉三

同

ちきくまのまをまも

同五

ちきくまのまをまも

同

あふとまをまも

うらみいよめ

舞飛月宴 廿三 よよとゆふと遠をゆくまじ経をそ一両きん

つけきまをうらみけしてらるをあけてまじよの佛説の

あらの摩訶めえんあめのきん経ゆりうと彈まきまふに

らそとのまふ〇袂衣三下廿五 舞のあき風は月のまつたし

まきうゆり〇同上廿二 舞のあき風は月のまつたし

十 じーあけのせとくまひとうもふ廿舞〇続世継かうら

釈迎のまゆりいあふ上たといふあけうら上今様〇

同 花うらなむのむ ぶきめえんまよめを様外に推現うらめい

舞いゆり〇宝物集 詠廿四 十二山寺をうらむ〇

舞飛 せり花 しのむしうらひては遊るはむらうらむ

といとあもゆり〇

ウタホウシ
宇陀法師

江次第二孟句抄云此日有御遊者出居召琴云

書司御手喚新儀式云謂宇陀法師也〇

うらみいよめ 祈

うゝる先...
後藤 三
拾遺春
うゝる先...
うゝる先...
うゝる先...

うゝる先...

林葉六 緑竹有女 奇林苑

○ま木口ニ交林苑...
後藤 三
拾遺春

うゝる先...

返一 後藤 三

うゝる先...

うゝる先...

紫家集故女将の君の...
○

うゝる先...

拾遺 四 廿七

新六 神楽...
うゝる先...

続後復行家

神葉に卯月の又一矢引けてつひの世たつたは

全葉の事 後柱 之の事う月おつにきあめてきえーの世のほく

六百有る各

神のまのう終てき卯月のつひてき

新井良一 後成

又一卯月おつにきあめてきえーの世のほく

○

うーの事 傳言

源 善隆稿 かんしうーの事 ○

うーの事

葉元 十六 三日の事 本家又日の事 傍改とある

うーの事 三日の事 本家又日の事 傍改とある

うーの事

万代 保三 保三 四年 皇女の九劫に 後三系 後白の事

後拾 拾

○ 袂衣 四上 三十九 九日の事 保てのけうあさーあひしうまつ

けいしうまつ 〇 源 善木 中君のうあさーあひ三日

又四七日九日あり 事くえーの事 〇 花鳥引 李部王

記 天曆四年七月七日 是夕 藤女御 有産 養事 産

くきまき ○同 蓬生ん 人外しをいふも せんきんまてを
くおしきしき 清きき返た。○袂衣ニ 上十一

ういさふいさ 羨魚

源 岩木 さいも ぶあうらふのうにういさめいを

ういさういさ 玉小掃 さいしんくまをいふに
人のほかにききし事いふれと同一なる事

詞人見ゆき ○源 には葉草
みもりい

や言

ういさふいさ 十一 アラケナクナトノ ナクト同シ 即ウシロノ
タシナリ

落らほ ○袂衣一ノ下 十五 さいきんめい

ていしりういさ 世をんちをういさめいもくらくら
あか 国信 さいきんめい さいきんめい

○今昔十九 五条 然レハ後メタナク 無限

○同 同 父母ノ明暮後メタナキ 昔ニ宣ヒシカ

ハ ○同 廿二 七 極テ後 同タ 天シ ○同 廿八

林葉又 借他名 遂を
その人し ありに 君ッ さいめき さいめき さいめき
和泉 或 終集 物 けい さいきんめい さいきんめい さいきんめい

○頭昭 拾遺 杖注云 うちろメタナキト云テ 奇ニ ハウシ
ノ 詞ニ ハウシロメタナキト云テ 奇ニ ハウシ

同

〇

五言ノ条ニ入ルコトハハシラセヨ
馬ノ夕テカミル

月宴
五十五

えの部

二言

えい

盛衰記六此程風氣有テ不入見参ト云ハ
テ出合レズ〇同同鬼モ角モ相計ハレニ
コ
ヲ奉隨ラメト曳去ハナク還リ行ラ此由ヲ申
ヘシト宣ヘハ〇

えせ果

えせ
枕冊子
長巻無巻

枕冊子

十三

むうハえせも皆ききるかいうあそあ

梅花宴 異本能宣集

菊花宴 紀畧一延喜十一年十月廿四日
掃部式 九月九日

煎裁宴 拾遺歌
○源野分 涉流つほせんさいのえんもほろめん
△河原保三年八月口裏有り。○元帥集つ
ほせんさいの宴もほろめん人みかろて。○清正集内
に十月十四日おつほせんさいのきりのえん。

月宴

残葉宴 文粹二ノ四世号一。○臨觴毋殘葉宴村上
六年辛亥 天曆九月始有之

めしそふのほろめん 四季談 三月

萩宴 源氏横笛

鈴虫宴 源氏鈴虫

蓮葉之宴 統紀世三仁光室尾六年八月癸酉始設
○類史三十二部 延曆十二年八月癸

芳豆花宴 仁明紀

えうち 何事をもつて居る所は

枕冊子^十七 ぬきぬれんそふ事ゆき人のまゝにえう

ちにいひきしむるも△又えうちあて笑^エカテの意う○

えつる

和名 ○今昔廿八七 サ、ラヲ突キ机

ヲ差テ様々ノ田樂ヲニツ物三ツ物ニ儲テ○

えむを

盛衰記九硫黄嶋ニリ渡ケル^十畧 嶋ノ者共申

夷三郎殿
夷社

ケルハ此御棲ヨリ五十余町ヲ去テ一ノ離山

アリ峯高ノ谷深シ其名ヲ鸞岳ト云彼岳ニハ

夷三郎殿ト申神ヲ奉祝岩殿ト名付タリ○東

鑑四十三^{十四}鶴岳上下宮為正殿遷宮也今度始

而於西門朕可被勸請三郎大明神也○同四十

四 夷社

えむ 箴

今昔廿九^{廿三}夫ハ竹蠶簿箭十許差タルヲ燈負

テ○蠶簿ハ和名抄ニエテ蠶具也○レヲ箴

卅

ノ假字ニカリタル也○

えい

和名抄 蠶絲具 蠶簿兼名花云簿 音薄 和名一

名笛 音由 養蠶器 施於其上 令作蚕者也

支木九山家夏月 佐打野屋 山さし ちのえいしに 澁月のかけに 眉のまゝいゝえり

新六ノえ 知家 しまし 子ハちのえのえいしに かけあひ ちのえのえいしに かけあひ

○

えい 衣紋

続世継 花のちのえい 大將の 花園大 ちのえい 後有仁 のちのえい

人をも ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

の花園のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい ちのえい のちのえい

一のちのえい
ちのえい
ちのえい
ちのえい
ちのえい
ちのえい

えいのみ

花鳥引香字抄云珠栴檀樹葉皮春菝為香故云
葉皮又裏衣香俗云衣比別王家方子裏衣香あ
まををえいのみ考とく一云薰衣香一名一云そ
つて薰の名方一説衣被の多く○まじりえいのみ
あひうり○初子 えいみの香のあつていへん○

えんも 延道

枕冊子

○中務門侍日記 えん

五言

えいのみ 要物。 絶

らり保

あて

えいのみ 絶

かきこもまじりあつていへん
えいのみ 絶

えいのみ

散木 莊子

○ 山家集下
野にわさば枝のきははにわさば
後世をなす人おとらる

えむらひ 今云カモジ

神代紀伊時諾尊投里髮比即化成蒲萄○源
音初
伊予の山もいふくもわくもたし
くまきくまにあり給とえひ
うきうきうきうきうきうき

えむらひ 夷歌

えむらひの移りめ 日下江の葉外
えむらひの移りめ 日下江の葉外
○伊勢むね ねむらひの移りめ
○源 東屋 えむらひの移りめ
東屋

えむらひ
えむらひ
えむらひ

夫木新一新六 為家
えむらひの移りめ 日下江の葉外
えむらひの移りめ 日下江の葉外

えむらひ

源 綜合 えむらひの移りめ 日下江の葉外

六言

えむらひ

今昔廿七^{廿五} ヒタト抱付テ音ヲ高ク拳テ得タ
リオウト云テ順ト思ヒキ所ヲ刀ノ楯口マテ
突ミツ○

エビス衣ノスカタ
エビススカタ
フナエヒ

えむほらも

小嶋口号 魁との清遊所ありあてりぬきぬえむ
ほ衣のうくもめり○同 朝衣の人ぬきてえむほらも
とこの長いうらまふし○同 大酒をわ出川亭に
中將ぬきぬえむほらもぬきぬえむほらもぬきぬえむ
○同 えむほらもぬきぬえむほらもぬきぬえむほらも
西あえむほらもぬきぬえむほらもぬきぬえむほらも

七言

えんの夢原

真松原○巨陽殿の北あり

拾苾廿云匡遠本宜秋門北掃部寮西近南朱

雀西歌

あされほらもぬきぬえむほらもぬきぬえむほらも
○きり保 あまの白波
えむほらもぬきぬえむほらもぬきぬえむほらも

八言

えんぬきぬえむほらも

